

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

社会的・職業的自立を目指し、自他を尊重し協調しながら、自己実現と社会に貢献できる心身ともに健康な生徒を育成する。

＜校訓＞ 自立 挑戦 協調

2 学校の特徴

- ・ 本校は、軽度知的障害のある生徒を教育の対象とし、卒業後の一般企業等への就労など、社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校である。
- ・ 学校の規模は、1学年当たり、3学級24名を定員とし、就労に必要な知識・技能・態度等の基礎を習得するための実習を行う生産・サービス科を設置している。

3 学校の現状と課題

昨年度、八期生9名が卒業し、これまでに140名の卒業生を社会に送り出した。卒業生全員が希望する進路先へ就職し、多くの生徒が一般企業への就労を果たしている。今年度は23名が入学し、全校生徒は7学級54名となった。

今年度も引き続き「入学者定員を満たす取組の充実を図ること」「全員希望先への就職を目指すこと」「就労生活を継続する力を高めること」「自己理解を深め自己管理意識を高めること」を使命として取り組みたいと考える。授業や実習を通して生徒の自己理解力を高めるとともに、生徒一人一人が社会で自分らしく、自分が得意とする能力を生かして生き生きと活躍できるように、生徒の主体的な学びを支える有効な手段となるICTを積極的に活用し、質の高い教育の実践に取り組んでいく必要がある。また、コロナ禍で十分に実施できなかった地域との交流や連携を改めて深めることにより、地域から信頼される学校を目指すとともに、就労支援のセンター的機能を高められるよう、就労支援体制の強化を図っていくことが課題である。

(1) 就労できる力を育てる

- ・ 職業教育に重点を置いた教育活動の推進と一人一人の特性に応じた就労支援の充実。
- ・ 実習（作業学習）や就業体験の系統的な実施及び地域人材や事業所等と連携した専門的な指導の充実。
- ・ 就労に向けた積極的な職場開拓及び職場適応・定着のための職業選択支援の充実。

(2) 生活の質を高める力を育てる

- ・ 就労生活の継続に向けて自律し、規則正しい基本的生活習慣を定着させるための支援の充実。
- ・ 青年期にふさわしい情操を培い、自己理解を深める支援を充実させるとともに、成人に向けての自覚と責任感を育み、良好な人間関係を保って主体的に心豊かな社会生活を送る力を養うための指導の充実。
- ・ 体力の向上及び自らの健康管理や健康的な生活を送ることができるための指導の充実。

(3) 地域社会に貢献する

- ・ 地域資源や人材の積極的活用、地域での実習（作業学習）やボランティア活動などを通しての理解啓発及び社会貢献。
- ・ 県東部の特別支援学校や高等学校における障害のある生徒の就労に関する支援の推進。

(4) 安全・安心な教育環境を整備する

- ・ 安全教育の計画的・組織的な実施と事故防止対策の拡充。
- ・ 危機管理や防災意識を高めるための校内体制づくり。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1 ①②③	目標	・個別学習や協働学習でICT機器を効果的に利活用し、生徒が主体的、対話的に学習を進めることができるようにするとともに、情報社会で適正に行動するための基本的な考え方と態度の育成を図る。
		計画	・学校課題の研究を通して、 授業改善の取組 を進める。 ・学級活動、各教科等の個別学習や協働学習の場面で、ICTを効果的に活用した授業を行うために、先進事例の研修やモデル授業の互見を行い、教師のICT活用能力及び授業を展開する能力を高める。 ・互見授業等について、公開授業期間として保護者の参観の機会を設ける。また、ICTの活用や学習の様子を学年だよりやHP等で保護者に知らせ、家庭と協力して効果的に取組を進める。
		目標	・卒業後の就労及び成人としての社会生活を見据え、身に付けておくべき力を整理し、習得するための自己理解能力を高めるために、必要に応じた支援内容の選択と充実を図る。
		計画	・就職及び就労継続に必要な力を整理し、作業学習及び学校生活での目標を選択するために「到達度チェック表」を活用し、自己理解を深め、目標達成のための達成段階が視覚的に分かるようにする。
		目標	・教員全体で生徒への支援方法や工夫点を共通理解する場を設定することで、より効果的な指導につなげる。
		計画	・作業学習では、他班の活動に参加する機会を設け、支援方法や工夫点を参考に、自班の支援に生かすことができるようにする。
2	学校生活	目標	・卒業後、成人としての自覚や責任感をもち、健全な自立生活を送るための基盤となる社会常識を身に付けることができるように、社会生活のルールや情報モラルについての学習の充実を図る。
		計画	・生徒が社会生活上のルールやマナーを遵守し、情報モラルを意識した行動ができるよう、学年・学級での個別学習や協働学習を通して、社会規範やICTの適切な活用を理解するための学習場面を設定する。また、各指導の実施後にワークシート等を活用した振り返り学習の機会を設ける。 ・健全な自立生活を送るための知識や技能を身に付けることができるように、学年や分掌、各教科等と連携し、必要に応じて外部講師等による講習会を実施する。
		目標	・防災、防犯の訓練を通して、生徒が安全・安心して学習活動に取り組むことができるようにするとともに、前年度、見直しを図った危機管理マニュアルの運用を通して、学校の安全体制の充実を図る。
		計画	・実際の場面を想定した防災訓練、防犯訓練を実施し、関係機関の専門的な視点からの指導を生かし、学校の安全体制の充実を図り、教員間で共通理解を図る。 ・緊急時の状況把握、安全な避難や対応方法について理解し、落ち着いて安全・迅速な緊急時対応ができるよう指導の充実を図る。
		目標	・将来の自立した生活のために生活習慣を考える機会を設定し、自己管理しようとする意識と態度を育て、基本的生活習慣の確立を図る。
		計画	・生徒が自分の生活習慣を振り返る期間を設定し、自ら改善点を考え、自立した生活を送ることができるよう継続して健康チェックを実施する。スマートフォンの使用時間等、家庭での生活リズムや生活習慣も項目に加え、家庭との連携を図りながら健康チェックの結果を生活改善に活かすことができるようにする。
目標	・一人一人のニーズに応じて、学校生活や家庭生活、社会生活に関する支援体制を整え、支援の充実を図る。		

		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察や面談等による生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてサポート会議等を開き、支援体制を整備する。 ・適時に質の高い支援が行えるよう、家庭との連携を密にし、地域、関係機関等との連携・協力の充実を図る。
3	進路支援	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒だけでなく保護者の就労に向けての理解を促進するために、雇用状況等の情報や就業体験報告会等の参観機会を設けるなど、情報提供の場の設定や情報の発信を行い、就労への意識啓発を図る。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の取組状況や生徒・保護者の意見・感想等を周知する。 ・障害者雇用率や最低賃金など障害者雇用の現状や社会の流れ等の情報を生徒・保護者に提供する。 ・卒業生のお話を聴く「先輩に学ぶ」の行事に保護者の参観を可能とし、生徒と情報を共有できるようにする。 ・学校全体で生徒・保護者への就労意識を高める指導ができるよう、教員対象の進路研修会を一層充実させ、進路指導への理解を深める。
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向けの学校見学会を実施し、好事例となる取組等の研修を通して、企業への一般就労を目指す生徒の特性の理解を促進し、就業体験の受け入れや雇用促進を図る。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援学校就労応援団とやま」学校見学会を実施し、企業担当者への本校の作業学習や教科学習の公開、企業間の情報交換及び好事例の発表を通して、本校の取組の理解や就労支援体制の充実を図る。
4	特別活動 重点2 ⑤⑥⑬	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加等により地域交流を推進し、生徒が積極的に社会参加、社会貢献する態度を育むとともに、地域への理解啓発を図る。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加や地域の方々と触れ合う機会を利用して地域交流を深めることを通し、生徒が積極的に社会参加、貢献する態度を育む。 ・学校行事等の情報を発信し、地域との交流の機会を設け、積極的に地域に開かれた学校としての推進を図る。
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を中心に、生徒自身が学校をよりよくするための方策を考える場を設け、学校行事等を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を養う。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が協働して取り組む行事（体育大会、文化祭、生徒会・委員会活動等）の企画や運営を通して、主体的に取り組める環境づくりに努め、活動を通して学校をよりよくする具体的な方策を一人一人が考え、意識して実践する機会を設ける。
5	その他 (情報)	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上を目的としたICTの利活用及び情報モラルの向上を図り、生徒の正しく安全なICTの利用促進を図る。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT利用規定及びクラウドサービス利用規定に基づき、生徒の正しく安全なICTの利用の促進を図る。また、校内研修として情報モラル指導に関する研修等を実施する。 ・教員の実態やニーズを考慮し、小グループでの研修や時間的に制約の少ないオンライン研修等の情報提供や受講の勧奨をする。
	その他 (教育相談)	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者確保に向けた中学校等の生徒や保護者、教員への理解啓発及び教育相談の充実を図る。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・県東部の中学校を個別訪問し、本校の説明を通して理解啓発を行い、より適切な進路選択となるよう努める。 ・対象者のニーズに合うようにオープンスクール等の内容を工夫する。 ・HP等を通して本校の取組を分かりやすく伝える。 ・学校見学会等で個に応じた相談となるように個別相談のもち方を工夫し、適切な進路選択につなげることができるよう情報提供をする。
	重点3⑫	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・県東部の高等学校における障害のある生徒の就労に関する相談・支援を行い、就労支援のセンター校としての機能を高める。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・県東部の高等学校の教職員及び保護者向けの学校見学会を実施し、高等学校に在籍する障害のある生徒の就労に向けた指導、支援に関する情報提供や個別相談の機会を設ける。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —1—			
重点項目	学習活動		
重点課題	授業力向上のための取組の推進		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒の特性として、学習の取組や習得に時間が掛かったり、説明や課題、発問内容の理解及びイメージができなかったり、学習が定着しづらかったりといった学習上の困難があり、授業では受け身になりがちである。 1人1台タブレット端末の配備でICT環境が整い、生徒が各学習活動でICTを活用して考え、生徒同士で意欲的に学ぶ場面が多くみられるようになった。 ICTを活用した学習により、本校が実習を重視して積み上げてきた働く力に加え、情報社会において情報を選択・活用し、適正に判断して行動できる力の向上が期待できる。ただ、教師のICTを活用する取組は進んだものの、依然として生徒の主体的で対話的な学びを促す授業力の向上が望まれる。互見授業及び授業研究の機会を設け、授業改善に向けた取組が必要である。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①互見授業による授業研究の実施 2回以上</td> <td>②ICTを活用した授業改善の取組報告 全教員1回以上</td> </tr> </table>	①互見授業による授業研究の実施 2回以上	②ICTを活用した授業改善の取組報告 全教員1回以上
①互見授業による授業研究の実施 2回以上	②ICTを活用した授業改善の取組報告 全教員1回以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業及び授業研究、教科ごとの事前・事後研究を年間2回実施する。 生徒の情報活用能力を目指し、全教員がICTを活用した授業改善を実施し、取組の成果報告での情報共有を通して授業力の向上を図る。 外部講師を活用した研修会等を通して、生徒の情報活用能力を高めるための教師の授業力の向上を図る。 ICT教育推進委員会の機能の充実を図り、ICT教育の環境整備を進めるとともに、学年や分掌と協力して情報モラルの向上を図る等、ICTを安全に使用できる環境づくりを進める。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —2—					
重点項目	学校生活				
重点課題	生徒の自主的・実践的な態度の育成				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を中心に、生徒自身が学校をよりよくする活動を推進しているが、明確に自分の考えを伝えたり、他者の考えを基に、より建設的な考えに発展させたり、主体的に他者と協力して活動に取り組んだりする生徒は多くない。 集団や社会の一員として、よりよい生活や良好な人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する機会や方法を検討する必要がある。 コロナ禍で十分な地域活動へ参加できず、生徒の地域活動への参加意識は低い。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>①学校行事や生徒会・委員会活動、その他の活動で、学校生活をよりよく、楽しくする取組や企画を提案し、実践</td> <td>②積極的に社会参加の意識を高め、社会貢献できる地域活動や交流を深める活動等への参加の機会等の増加</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全生徒が各学期1件以上、提案 全生徒が各学期1件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全生徒が各学期1件以上、提案 全生徒が各学期1件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 </td> </tr> </table>	①学校行事や生徒会・委員会活動、その他の活動で、学校生活をよりよく、楽しくする取組や企画を提案し、実践	②積極的に社会参加の意識を高め、社会貢献できる地域活動や交流を深める活動等への参加の機会等の増加	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が各学期1件以上、提案 全生徒が各学期1件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が各学期1件以上、提案 全生徒が各学期1件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践
①学校行事や生徒会・委員会活動、その他の活動で、学校生活をよりよく、楽しくする取組や企画を提案し、実践	②積極的に社会参加の意識を高め、社会貢献できる地域活動や交流を深める活動等への参加の機会等の増加				
<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が各学期1件以上、提案 全生徒が各学期1件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が各学期1件以上、提案 全生徒が各学期1件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が協働して取り組む行事（体育大会、文化祭等）の企画や運営に主体的に取り組める環境づくりを進める。 社会自立への主体的な態度を養い、よりよく生きる力を高めるように、ウェルビーイングの視点で学校をよりよくするアイデアや社会参加・社会貢献の機会を設定する。 地域行事への参加や地域の方々と触れ合う機会を利用して、生徒が主体的に地域交流を深める活動等を提案する機会を積極的に設けて実践する。 積極的に地域に開かれた学校としての推進を図ることで生徒の実践の場を広げるとともに、広く地域の方々に学校行事等の地域との交流の機会等も含めた情報を発信する。 				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（教育相談）	
重点課題	就労支援のセンター校としての機能の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県東部の高等学校に在籍する障害のある生徒の就労に関する相談の実績はほとんどない状況である。しかし、障害のある生徒が在籍する高等学校等から学習支援、生活支援に関する相談や本校の概要についての問合せは、年に数件ある。 ・ 現在、小学校、中学校、事業所対象の学校見学会等の教育相談の機会は設けているが、高等学校に在籍する障害のある生徒の就労に向けた教育相談の機会は設定していない。 	
達成目標	①高等学校向け学校見学会の実施に向けた周知等の工夫	②県東部の高等学校の教職員及び保護者対象の学校見学会の実施
	学校案内、HP等を活用した周知	1回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県東部の高等学校の教職員及び保護者向けの学校見学会の実施により、高等学校に在籍する障害のある生徒の就労に向けた指導、支援について情報提供や個別相談の機会を設ける。 ・ 対象となる生徒の教育相談を通して、高等学校に在籍する障害のある生徒の就労に向けた適切な進路指導の一助となるように情報提供をする。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）